

ぐりふぁん letter



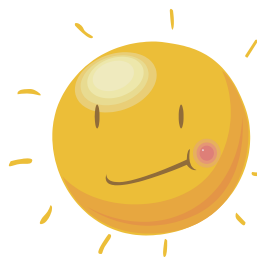
Vol.
40
2020.7

INDEX

- ◆ 聖光幼稚園「せいこうようちえんおひさまプロジェクト」が始まります！
20年を経たおひさま発電所 . . . 2
- ◆ おひさま発電所が育む「人」 . . . 3
- ◆ アースガーデンとおひさま発電所～振り返りと今後のこと . . . 4
- ◆ グリーン・ニューディールの考え方が日本にも上陸しています
2020年総会報告 . . . 5
- ◆ 環境学習ときょうとグリーンファンド
2020年度 環境学習予定 . . . 6
- ◆ 会員さん こんにちは！
編集後記 . . . 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド



聖光幼稚園 せいこうようちえんおひさまプロジェクト が始まります！

聖光幼稚園は、京都市左京区松ヶ崎にある幼稚園です。1931年宣教師が始めた小さな学校から始まり、山の麓の自然の中で「自然と共生すること、神さまの愛を感じて生きることを大切にしたい」保育をされています。

ご紹介をいただいて、初めて幼稚園に伺ったときから、園長先生の太陽光発電設置への意欲が感じられ、わくわくしたことを覚えています。以前も設置に向けて検討されたことがあったということで、「今度こそ・・・」といったお気持ちが強かったのでしょう。お会いできたことを本当にうれしく思いました。



保育理念の一環としておひさま発電所設置を考えておられることは、設置後の環境学習に対しても強い関心示されたことでわかりました。園長先生の積極的な対応に、私たちも励まされつつ、プロジェクトを進めています。

新型コロナウイルスへの対応で、社会全体の今後の在り方が大きな課題となっていますが、温暖化は確実に進み、「気候危機」が現実のものとなり、大きな被害が出ています。残念ながら、収まっていくとは考えられません。「おひさまプロジェクト」はささやかな取り組みではありますが、多くの人に温暖化と日常の営みを問い続けるきっかけとなるはずで、これからも、途切れることなく進めていきたいと思っております。

点灯式は11月に予定していますが、内容については状況を見て決めるを得ないでしょう。ただ、幼い子どもたちが毎日過ごす幼稚園に、11.1kWの太陽光発電と蓄電池6.5kWhが設置され、環境学習にも一役かうことになるのは確実です。子どもたちの経験として積み重なっていくことで、みなさまの様々な形での参加をお願いいたします。



(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)



20年を経たおひさま発電所



おひさま発電所づくりも、今回のプロジェクトで24カ所となります。思えば、北海道グリーンファンドに倣ってきょうとグリーンファンドを立ち上げたのは2000年、ちょうど20年前でした。地球温暖化にブレーキをかけ、同時に原発も止めるために、何か市民でも出来ることをしよう。それには自然エネルギーを自分たちで増やしていこうと活動してきました。

その時以来、出来たおひさま発電所は、保育園に14カ所、幼稚園に2カ所、民間の環境学習の施設に3カ所、障がい者の施設に2カ所、地域の市民活動センターに1カ所、企業に1カ所の23カ所となりました。

発電規模は合計185kW余り、総事業費は1億8596万円、寄付の総額はのべ3,040件、2048万円余り、ご協力いただいた設置協力金は680万円、受けた補助金は5429万円余り、その他の助成金は1919万円余り。

数字を並べてみましたが、この20年間に3000件／2000万円を超えるご寄付を寄せてくださった市民の方々がいられたことに、今更ながら驚きと感動を覚えます。ますます過酷になった気候変動の影響に対して、ささやかな私たちの活動ではありますが、同じ志を寄せてくださった方々とともに、これからも続けていかねばと思っております。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

おひさま発電所が育む「人」

京都府地球温暖化防止活動推進センター 副センター長 木原 浩貴

■私ときょうとグリーンファンド

こんにちは。京都府温暖化防止センターの木原浩貴です。と書きましたが、職員としては6月末で退職いたしました。在職中には、きょうとグリーンファンドの事務局や会員の皆様、そして、おひさま発電所を設置された保育園・幼稚園の皆様には、大変お世話になりました。今は、非常勤の副センター長という立場で活動を続けております。

私がきょうとグリーンファンドの皆様と出会ったのは、まだきょうとグリーンファンドが立ち上がる前のことでした。20年以上前、当時大学生だった私は「市民協働発電所の話を聞ける」という噂を聞きつけ学習会に参加しました。北海道での事例を聞き、京都での実現方法を検討する会であったように記憶しています。「同じ方法は無理だ」、「でも絶対に京都でできる方法がある」とアツク語るおっちゃんおばちゃんたち（すみません！）を見て、私は衝撃を受けたのです。「ああ、社会を変えようとしている人たちって、本当に存在するんだ」と。それまで私にとって「社会」なんてものは、教科書の中、またはテレビの向こう側の存在でした。未来に漠然と不安を感じていた私は、皆様に出会って、大人になるのが怖くなくなりました。私がこの世界に身を投じることになった一つの大きなきっかけが、この学習会でした。

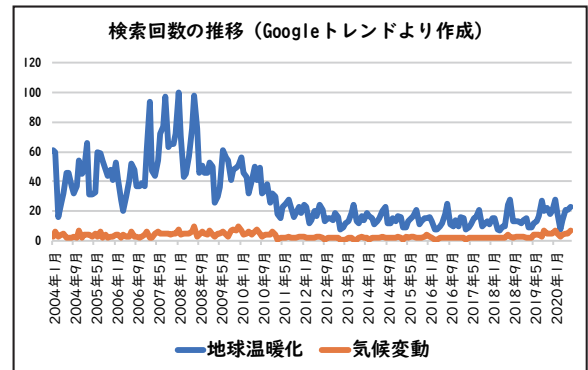
以降、ご縁をいただき、いくつかの「点灯式」で温暖化の話をさせていただきました。講師として呼んでいただきましたが、毎回、勉強させていただき刺激をいただいていたのは私の方でした。

■なぜ人の心は、気候変動問題を受け入れられないのか

九州を中心に、今年も豪雨の被害が起こってしまっています。背景には、気候変動による海水温の上昇があると言われていいます。気候危機は、現実のものとして目の前に存在します。

でも、関心が高まっているかということ、実はそうでもありません。グラフは、「GoogleTrends」のもので、キーワードがどの時期にどれだけ検索されたのかが表示されています。検索数は減少していることがわかります。

これは日本だけの傾向ではありません。諸外国での研究によって「気候変動に関する科学的解明が進んでも、人の心の中での重要性は高まらないどころか、逆に下がる」ことが指摘されています。この矛盾は「心理的気候パラドックス」と呼ばれています。なぜこんなことが起こるのでしょう。理由はいくつか指摘されていますが、簡単にまとめると、「脱炭素社会を実現できるというイメージがわからないから」、「対策は負担を伴うものだと思われるから」だと私は思います。



■脱炭素型の未来に向けて

すでに、2050年ごろまでに「CO2排出実質ゼロの社会」を実現する必要があることがわかっています。

※詳しくはこちらの動画をご覧ください。恥ずかしながら、私が動画で説明しています。

YouTube「これだけは知ってほしい 地球温暖化のはなし」
<https://youtu.be/BPdtgKWMFQ> で検索



「あと30年でゼロ」などという「とんでもない」目標を聞いたとき、人はどう思うでしょう。多くの方は、「耳を塞いでしまう」かもしれません。でも、おひさま発電所のある保育園等に通った子どもたちはどうでしょう。自然の恵みでエネルギーを使えることを肌で知っている子どもたちは、きっと違う反応をするんじゃないかと、これまで点灯式で出会った子どもたちを思い浮かべながら、私は本気で思うのです。

おひさま発電所は、単にその施設に自然エネルギーの電力を供給してきただけではなく、「人」を育ててきたのだと思います。そしてそれは、社会を変える大きな力になると思います。ここまで書いて、ようやく気づきました。20年以上前、「おっちゃんおばちゃんたち」は、それも考えてこの活動を始めたんじゃないかと。おひさま発電所に育ててもらった者の一人として、私も皆様には負けないように頑張ります。

グリーン・ニューディールの考え方が日本にも上陸しています

関西学院大学総合政策学部教授 朴 勝俊

グリーン・ニューディール(GND)と言えば、「あのオバマ大統領の頃の政策だな」と思われるかもしれませんが、実は、時代はさらに進んでいます。東京都知事選挙では山本太郎候補と宇都宮健児候補の政策にも「GND」が見られました。

欧米では2018年以降、格差や貧困の拡大と気候危機を背景として、米民主党のサンダース議員やオカシオコルテス議員、ギリシャのバルファキス議員、イギリス労働党など、左派のさまざまな政治勢力が相次いで、「反緊縮」のGND政策を打ち出しています。「反緊縮」とは、経済を停滞させ貧困を拡大させる緊縮財政に反対し、積極的な経済政策を進めようとする考え方です。

「反緊縮」のGNDは、深刻な気候危機を真っ正面から受け止め、炭素排出ゼロ社会への移行を、従来の目標よりも、はるかに早急に達成しようとしています(例えば英国労働党は2030年に差し引き排出ゼロ)。税金は主な資金源ではありません。まず、世界で4000兆円以上もある年金基金など、巨額の民間資金を呼び起こします。また、通貨発行権を有する政府の場合には、財政破綻の心配がありませんので積極財政を行います。これらにより、毎年数兆円～数十兆円規模の再エネ・省エネ投資を行い、雇用を作るのです。脱炭素化によって不利益を蒙る産業に従事している人々にも政策を支持してもらう必要がありますから、彼らの不利にならない「公正な移行」の実現を掲げます。また、富や人種、ジェンダー、世代などに関わる不正義の解消にも注意を払っています。

<参考文献> 朴勝俊・長谷川羽衣子・松尾匡(2020) (WebでJ-STAGEより入手可)
「反緊縮グリーン・ニューディールとは何か」環境経済・政策研究』13(1)、pp.27-41
朴勝俊・シェイプティル(2020)『バランスシートでゼロから分かる 財政破綻論の誤り』青灯社

2020年 総会 報告

2020年の総会は、今までにないものとなりました。新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、「皆で集まる」ことを避けなければならない状況。これは「総会」の持つ意味合いを削ぐことに他なりません。節目に際して、振り返り、これからを話し合うこと、久しぶりにお会いする方々と言葉を交わすことが叶わないのは、残念としか言いようがないのです。

では、「開催しない」で、書面だけの報告、計画、役員改選で済ますことはできないのか、というと、「法律で決まっていますから」ダメだそうです。ということで、事務局では2月ころからどのような形の総会にするのか、検討を始めました。

結局は、事務局のメンバーと理事長、副理事長が事務所に集まり、6人の会員がZoomを使っての参加という形で、無事終了。話し合いとしては熱を帯びるほどにはなりませんでした。東京からの参加者もあってそれなりの総会になったのではないかと思います。

ただ、予定していた学習会、そして懇親会は中止しましたので、やはり寂しい総会の日になってしまいました。早い時期のコロナの収束を願うばかりですが、相当長期間にわたりそうで、覚悟が必要なようです。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)



アースガーデンとおひさま発電所～振り返りと今後のこと ✨

植月 千砂

昨年、アースガーデンおひさま発電所も無事10周年を迎えました。振り返るとおひさま発電所ができるまで、長い道のりでした。アースガーデンで田舎暮らしをする前は、ずっと都会暮らしでしたが、砂上の楼閣のように危うい暮らしでした。そこで1997年のCOP3の後、別のライフスタイルを求めてオーストラリアのエコビレッジ、クリスタル・ウォーターズに旅立ち、パーマカルチャー・デザインを学びました。帰国後にかやぶき民家と清流の里、南丹市美山町に移住し、暮らしの場をアースガーデンと名付け、カフェと週末民宿、環境教育施設をスタートさせました。

まずは有機ガーデン作りをし、果樹、山野草、ハーブ、多年草の草花を植え、菜園で野菜作りを始めました。地場木材の建物はシックハウスを抑制した内装を自分たちで手がけ、薪ストーブ、太陽熱温水器や雨水タンクを設置し、池を手作りしました。複数のコンポストで養分循環の仕組みもでき、「食べられるビオトープ」のようなお庭ができました。

ところが長年欲しかった太陽光パネルは、自己資金だけでは無理でした。そんな折、きょうとグリーンファンドさんと出会い、2009年9月に13番目の「おひさま発電所(5kW規模)」になりました。売電分の寄付を通じて、自然エネルギーをさらに増やしていく仕組みも、私の気持ちに沿うものでした。

暮らしの中でも太陽光発電はありがたい存在でした。有機ガーデンから毎年出る剪定枝のうち、太いのはチェーンソーで薪にします。またガーデンの通路部分は電動草刈機を使い、剪定枝の一部をチップにしてガーデンに敷きます。いずれも電動工具を使いますが、全ておひさまパワーで動きます。また停電時は自立電源に切り替えて、冷蔵庫と冷凍庫の電気が確保できました。

アースガーデンは、建物も庭もパーマカルチャーという環境デザイン科学で設計されました。太陽光パネルの設置後に、プライベート・トイレに繋がるメタン発酵槽が完成し、人間の排泄物から調理用バイオガスとクリーンな液肥が得られ、より完成した循環モデルになりました。

2017年インドでのパーマカルチャー国際会議では、オーストラリア、ブルーマウンテン・パーマカルチャー研究所のローズマリー・モローさんより、アースガーデンについて発表する機会をいただき、デザイン事例と環境教育の業績評価によりパーマカルチャーのディプロマを授与されました。

このような活動を続けている間に、いつしか高齢者となり、一人暮らしにもなっていたのでアースガーデンに住み続けることが難しくなってきました。そこでおひさま発電所10周年を迎えた後、2019年10月に、自立型老後に向けて近隣の小さな住まいに転居しました。元アースガーデンだった所は、もう別の方の居宅となっていますが、太陽光パネルは「アースガーデンおひさま発電所」という名前が残っています。

私の元住居だったアースガーデンは、オーガニックガーデンと自然エネルギーのある暮らしデザインの記録として、皆様に見ていただけるスライド(総集編)が作られ、そこできょうとグリーンファンドさんのおひさま発電所も紹介されています。複数回にわたる庭の生き物調査、植物調査の記録もファイルに保存されています。

私の新たな住まいは丹波高原の中の小さな住宅地です。転居の数ヶ月前から、チガヤが生い茂る粘土質の土地をコンボと大型マメ科植物の力を借りて土壌改良をし、今ではオーガニックなお庭がほぼできています。かつてアースガーデンの環境教育プログラムに参加された若い方々がお庭づくりに関わってくださり、プロの技術指導もいただいたお陰で、思った以上に早く完成しました。この「老女」のためのお庭は「プチ・アースガーデン」とも呼ばれ、菜園ではすでに夏野菜が育っています。太陽熱温水器、雨水タンク、太陽光パネルはこれから設置予定です。

今後は多くの「アースガーデン」があちこちに作られることを願って、そのお手伝いをしていきます。都会や郊外に居住されている方々に小さなオーガニックガーデン、雨水タンク、生ゴミコンポストのある暮らしも提案していきます。現在、新たなHP作りをチームで手がけており、私個人の活動プランも計画中です。個人的には生態系を損なうことなく、人間のニーズである食べ物を生産する有機栽培の技術をさらに深めたいし、パーマカルチャー・デザインについても理論面、実践面をさらに学んでいきたいです。若い頃よりもかなりゆるくスローになりますが、これからも活動を続けていくので、よろしく願います。



環境学習ときょうとグリーンファンド

認定NPO法人きょうとグリーンファンド 理事長 松岡 憲司

皆さんよくご存知のように、環境学習は太陽光発電所設置とならぶきょうとグリーンファンドの主要事業です。新規のおひさま発電所の設置がなかった 2019 年度でも、環境学習事業は着実に実施されてきました。2019 年度では、環境腹話術が 7 回、自然観察会は 4 回、職員研修も2回行いました。

大阪大谷大学の井上美智子先生によると、幼児環境教育の国際的な出発点は 1972 年の国連人間環境会議での「世界環境行動計画」にあると言います。その後の「ベオグラード宣言」(1975 年)や「トビリシ宣言」(1977 年)でも幼児環境教育の必要性が指摘されているとのこと。一方日本では、1989 年の「幼稚園教育要領」に環境教育は含まれていませんでした。2003 年に議員立法によって「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」が制定されました。それによると環境教育の内容として、「環境に関する人間と環境、人間と人間との関わりの学習」、「科学的な視点を踏まえて客観的、公平な態度でのぞむ」、「豊かな環境とその恵みを大切に思う心をはぐくむ」、「いのちの大切さを学ぶ」とされています。しかし井上先生によると、この法律の中に幼児や保育に関する言葉は出てきません。

きょうとグリーンファンドは、今年設立 20 年を迎えましたが、当初から環境教育に取り組んできました。はじめて環境学習に臨んだのは最初のおひさま発電所が設置された 2001 年のことでした。先に見たように、2000 年代はじめの日本では保育園・幼稚園での環境教育は公的に始められていませんでしたので、きょうとグリーンファンドの取り組みは日本でも先駆的な取り組みだったと言えます。最初に始めたのは、保育園の職員の方々を対象とした研修で、温暖化と自然エネルギーについては 2001 年から、グリーンコンシューマーや、省エネ、ゴミ削減については 2003 年から実施してきました。保育園児に向けての学びの場は、2003 年に腹話術で始まりました。



現在実施している環境学習プログラムとしては、まず畠山智子さんと人形のシンちゃんによる環境腹話術があります。これは、巧みなかけあい話術で地球温暖化防止の必要性や日常での省エネ生活について、子どもたちと一緒に考えます。自然観察会は、京都御苑や植物園などでのどんぐり拾い、キノコの観察などで自然に親しみつつ、自然の営みを学びます。これら園児を対象とした環境学習だけでなく、保育・幼稚園の保育士・先生や職員さんたちを対象として、すぐろくやパペットを使った環境学習教材づくりのワークショップも好評をいただいております。また省エネの専門家による省エネ・節水・ゴミ削減などのアドバイスもしております。2017 年度から 2019 年度まで、これら環境学習活動に夏原グラントからのご支援もいただき、一層充実した内容とすることができました。

〔参考〕井上美智子 (2009 年)「幼児期の環境教育研究をめぐる背景と課題」『環境教育』19(1)。
大西啓子・笹谷康之 (2010 年)「太陽光発電設備の設置とともに進める幼児の環境学習」『第 38 回環境システム研究論文発表会講演集』



◆2020年度 環境学習予定

今年度は、新型コロナで、環境学習もどうなることかと心配しましたが、例年通り、環境学習に取り組んで頂けるよう良かったです。無事に出来ることを願ってます。参加ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

環境腹話術

8/20(木) 10:30~11:30
8/26(水) 10:30~11:30
10/12(月) 10:30~11:30
10/20(火) 10:30~11:30
11/9(月) 10:30~11:30

自然観察会

10/7(水) 10:00~12:00
10/27(火) 10:00~12:30
10/30(金) 13:30~15:00

(きょうとグリーンファンド 深川佳子・山本照美)

太陽光発電設備今昔物語

・・・ 「京都おはなしを語る会」 日向 禮子 さん

ボランティアグループ「京都おはなしを語る会」に所属して、児童館や幼稚園、学校などで“おはなし”を語っています。昔話や児童文学を覚えて、子どもたちの前で一人一人の目を見て語ります。「あなたに語っているのよ」という気持ちを込めて。子どもは言葉だけで語られるおはなしをイメージし、不思議なことも受け容れて心を遊ばせます。

ところが、新型コロナウイルス感染拡大により、どこのおはなし会も3月から休みが続いています。9月から再開の見通しの所もありますが、マスクをして語るのには抵抗があります。というのも、人と人が出会った時、先ず目と目を交わし、にっこり笑い、挨拶をし、それから話しかけたり話しかけられたりが始まりますね。“おはなしを語る”というのは、そういう素朴なものなので、顔を見せて子どもたちにちゃんと向き合いたいという思いがあります。そうしてこそ、おはなしの不思議さも受け容れられるのではないかと。でも、これは私の勝手な思い込みかもしれません。

「新しい生活様式」とやらは、人間の最も人間らしいところを奪ってしまうような気がします。気兼ねなく人と人がかかわれる暮らしが早く戻ることを願っています。

やっぱり、おひさま発電所をつくってほしいんだ!

・・・ 深川 佳子 さん

2020年が、こんな年になるなんて思ってもいなかった。新型コロナのおかげで、子どもたちは、しばらく学校に行けなくなってしまった。仕事の仕方テレワークなどと変わってしまった。おかげで、会議もリモート会議、わざわざ出向かなくても、自宅で参加できる。アナログ人間な私も慣れなくては…。

研修も、リモートで受けました。前もってYouTubeで映像を見ておいて、後で話し合い。その映像は、「ライン・フンツリュック郡 エネルギー転換の先駆者たちの故郷」で、ドイツでのエネルギー転換の事例紹介でした。

ドイツのラインラント・プファルツ州にあるライン・フンツリュック郡では再生可能エネルギー利用に取り組んでおり、2018年にはCO₂排出が計算上ゼロとなり、2030年までには100%再生可能エネルギー導入をめざしています。風力発電、太陽光発電、太陽熱温水器、多くの森林があるため木質ごみ活用の暖房システム等、素晴らしい事例が紹介されていました。初めは、上手くいかなくても、住民たちに当事者意識が生まれ、地元の恵まれた条件を生かして次々とやっていく様子は、大変よかったです。それをそのまま、ここ京都でやれるかというところちょっと無理かな。でも、諦めたくないの、京都でも出来ること…、そうおひさま発電所をつくること!今までやってきたことを続けてほしいんだ!

編集後記

- ・3ヶ月家に籠りました。グリファンも含めてオンラインミーティングがすっかり定着しました。これをきっかけに仕事の仕方、日常生活が変わるかもしれませんね。(K.M)
- ・コロナ騒ぎの陰に隠れて、温暖化の話題は忘れ去られているような……。でも、この雨の降り方は、海面の温度や大気の流れなど、紛れもなく温暖化の影響でしょう。コロナも温暖化も地球全体の問題、OOFirstでは解決できませんよね。(K.O)
- ・最近、北海道のお米が美味しい。これも温暖化の影響?北海道の深川市は「米どころ」。一面、田植えされていて、なぜか感動!(Y.F)
- ・この間、新型コロナウイルスで中国のPM2.5がかなり減っていましたが、最近はまだ元の木阿弥です。教訓は活かされないのでしょうか。(T.Y)
- ・ハンディファンを何故若い女の子が持つのかと思ってました。団扇や扇子を使えばいいのでは?しかし今年は新型コロナ感染予防でマスクをしていると熱がこもり、汗が噴き出で困ってました。とうとう私もハンディファン愛用してます。(Y.M)
- ・また大雨による災害です。大きな要因は温暖化なのに、マスコミはあまり触れません。人類の使用した化石燃料の半分をこの30年間で使っているそうです。(T.H)
- ・おひさま発電所19号上鳥羽北部いきセンで昨年からはまったローズガーデンづくり、ボランティアの皆さんの力で、この春、見事な花を咲かせました。コロナ禍でふさがちな毎日にうれしいニュースでした。来年こそはガーデンパーティーをと楽しみにしています。(S.K)

《 ぐりふあん日誌 》

(2020)	3/24	ヒアリング(南丹地域自然Eネギ-普及・促進の会)
1/22 環境腹話術/京都きらら幼稚園	3/26	KGPN幹事会
1/23 KGPN幹事会、環境Eネギ-「Eネギ」の書類整理術 ワークショップ 編/ME田ワークショップ	3/31	第129回理事会
1/24 職員研修について打合せ 再EネギWG定例会議/気候Eネギ-	4/2	認定特定非営利活動法人としての認定更新
2/2 サカおてんとうさんEネギ-「災害時の大停電で太陽光 発電はどう機能したか」参加/奈良商工会議所	4/7	嵯峨幼稚園、聖光幼稚園訪問
2/12 認定特定非営利活動法人更新申請実地調査	4/13	自然Eネギ-学校検討会議出席/気候Eネギ-
2/14 YWCA~おこしやす春休みin京都について打合せ	4/16	聖光幼稚園現地調査・Eネギ-
2/15 職員研修へEネギ-を使ってEネギ-を作ろう/大宮保育園	5/13	自然Eネギ-学校検討会議出席
2/16 フェルバ Eネギ-が京都の集い参加/京都Eネギ-	5/15	2019年度監査
2/18 あ・うんEネギ-訪問/奈良市須川	5/21	KGPN幹事会出席
2/20 NPO会計相談/京都市市民活動総合Eネギ-	5/27	第130回理事会
2/25 自然Eネギ-学校検討会議出席/気候Eネギ-	5/28	聖光幼稚園訪問
2/26 KGPN幹事会出席	6/11	おひさまEネギ-打合せ/聖光幼稚園
3/5 あ・うんEネギ-訪問	6/17	2020年総会
3/13 Eネギ-活動打合せ/上鳥羽北部Eネギ-	6/19	KGPN総会・Eネギ-Eネギ-削減学習会参加
3/18 屋根貸し制度への提案/京都市地球温暖化対策室	6/27	自然Eネギ-学校・京都2020第1回
	7/1	第131回 理事会
	7/7	自然Eネギ-学校検討会議出席
	7/11	自然Eネギ-学校・京都2020第2回

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によって
ささえられています。

おひさま基金へのご寄付はゆうちょ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817
加入者名:きょうとグリーンファンド

★2015年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。
認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数

正会員 37 賛助会員 24

法人会員 5 2020/7現在

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; http://www.kyoto-gf.org (火~金 13:00~16:00)

